

「A J U自立の家との交流会」の報告書

本日は皆様の貴重なお休みの日に「A J U自立の家との交流会」にご参加していただき、ありがとうございます。

「A J U自立の家」は、地域社会の中で豊かな生活創造を実現するために、今までになかった全く新しい福祉の試みにチャレンジしています。最大の特徴は、施設の企画から運営に至るまで、障害者自身が中心になり進めているとお聞きしています。

我々、鍼灸師は「A J U自立の家」の皆様に教えられることがあり、鍼灸も国民の生活の中で必要とされ、豊かな生活創造を実現するために、今までになかった新しい普及活動を試み、チャレンジしていきます。お隣の国、中国・韓国では、中医・韓医が鍼灸施術を行っており、病気になれば、最初に「鍼灸」を受診し、快方に向かなければ、西洋医である病院・医院を受診しており、中国人や韓国人は、「鍼灸」を愛し、日常生活の中に入っています。

残念ながら、わが日本は、「鍼灸」を受診し、体験した国民はたった7%に過ぎません。病気になれば、直ぐに病院を受診することにより、国民医療費が40兆円にのぼり、今にも、破滅しかねないのが現状です。

国民が積極的に「鍼灸」を受診してくだされば、病気の手前である「未病」も防げ、軽い症状の病気はじめ、痛みや痺れなどに効果があり、保険診療報酬も低く、国民医療費の節約になり、節約された予算が「障害者福祉」に回されれば、また、国民が心身ともに健康になれば、日本国が豊かな生活創造国家は実現します。それは夢でもありません。

「愛知県鍼灸師協会」としては、同じ仲間でもある「一般社団法人愛知県鍼灸師会」の皆さんと連携し、新しい試みとして、障害（児）者へのアプローチをして、「鍼灸」の神秘、「鍼灸」の素晴らしさを知って頂けるよう努力してまいります。

もう一つは、いかに「鍼灸」は、痛くなく・熱くなく 安心で安全であり、エコロジーで、身体に優しい治療であることを、一人でも多くの国民の皆さんに体験していただくような事業を展開してまいります。

『医は仁』と申しますが、私も医の道を歩むものと致しまして、全力を尽くして皆様の健康管理をお守りし、社会のためにいささかでも貢献致したいと決意してまいります。本日は、松山先生はじめ「A J U自立の家」のスタッフの皆さん、ありがとうございます。た。

文責 池田 達

